

令和6年度学校経営計画に対する最終評価 報告書

石川県立七尾城北高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）		
1	GIGA スクール構想の ICT 機器等を活用した個別最適な指導（個別化）と学習（個性化）を改善・向上させ、基礎・基本の定着を更に図るとともに、授業のユニバーサル化（視覚化・音声化・焦点化・共有化など）を一層推進することで、主体的に学習し自ら伸ばせる態度を育む。	①	視覚化・焦点化・共有化などのユニバーサルデザイン化の観点を意識した授業を行う。	教務課 全教職員	「ユニバーサルデザインを意識した授業の展開ができている」教職員の割合が、 A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	D	GIGA校内研修が進むにつれ、ユニバーサルデザインを意識した教材が生徒の理解を助けるとの共通理解が進み、各教員が工夫を凝らした教材作成にあたった。 教員対象の自己評価アンケートでは、「授業の展開ができている」が43%（「できている・ほぼできている」100%）という結果であった。今後は「できている」がより高まるよう取り組んでいく。 生徒への授業評価アンケート結果からは、「わかりやすい」91%、「スライドなどが参考になる」87%という評価を得た。今後も研修を重ね、わかりやすい授業となるよう努める。
	②	ICT機器の効果的な活用や協働を促す授業を行う。	教務課 各教科	「主体的に授業に参加できている・ほぼできている」生徒の割合が A 85% 以上である B 65% 以上である C 50% 以上である D 50% 未満である	B	生徒による授業評価アンケートでは、「授業に意欲的に参加している・ほぼできている」との回答が83%であった。 ICT機器の活用が特別なものではなく、日常的な授業風景となりつつある。「基本的学習態度ができている」と回答した生徒は84%おり、今後、校内のICT研修会を充実させ、一人一台端末のさらなる有効活用や教員相互のスキルアップを図りながら授業改善を推進していく。	

学校関係者評価委員会の評価

- ・活用にあたっては困難な点はあると思うが、タブレット（クロムブック）は本来優れたツールであり、個別最適化にも適しているので、積極的に活用を進めて欲しい。
- ・1回目と2回目の授業評価を比較して「授業がわかりやすい」と回答している生徒の割合が高くなっており、先生方の工夫や努力を伺い知ることができる。

学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策

- ・校内外のGIGA研修や教員相互の教え合いを通して引き続き授業改善に努めていく。

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 学校生活全般を通して社会で必要なルールやマナーの定着を図るとともに、集団活動の中での役割を担うことで自己肯定感を高める。	① 各種教室（非行防止教室、防犯教室など）の開催により、生徒の規範意識を高め、ルールやマナーを守ることの大切さを意識させる。	生徒指導課	「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」生徒の割合が A 95% 以上である B 85% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	D	生徒による学校生活における調査では前後期計68名の生徒が回答し、「ルールやマナーを守って学校生活を送っている」と回答した生徒は57.4%（昨年度40.9%）であった。（「守っている」・「ほぼ守っている」98.6%） ルールやマナーを守ることの大切さについては、日頃の学校生活を通して伝えるとともに、集会や各種教室を通して継続的に指導し、生徒会活動やLH等において生徒が自ら考える機会を増やすことで、規範意識の向上に努める。
	② 学校行事や生徒会活動等への参加により、集団の一員としての自覚を持ち、自己肯定感を高める。	生徒指導課	「学校行事や生徒会活動等に参加し、自分の役割を果たした・ほぼ果たした」生徒の割合が A 90% 以上である B 80% 以上である C 70% 以上である D 70% 未満である	B	生徒による学校生活における調査では前後期計68名の生徒が回答し、「自分の役割を果たした」と回答した生徒は45.6%（昨年度31.3%）、「ほぼ果たした」と回答した生徒は36.8%（昨年50.0%）で、合計が82.4%であった。 学校祭、青春のこだまや球技大会などの学校行事において、「キャリアパスポート」や「振り返りシート」を記入することで、自らを振り返り自己肯定感を高める取り組みを進める。
	③ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、毎日の生徒情報交換会・個人面談・アンケート等を実施することで、いじめを未然防止する。	生徒指導課 全教職員	「いじめを未然防止する取組をととして、生徒の現状を理解し、十分成果を上げている」教員の割合が A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	D	教員対象の自己評価アンケートで、いじめを未然防止する取組が「十分成果をあげている」と回答した教員が25.0%、（「成果をあげている」・「ほぼ成果を上げている」100%） 教員からの働きかけだけでなく、SCによる講演会や、生徒全員の面談も活用し、好ましい人間関係作りについて指導するだけでなく、生徒の困り感に速やかに対応していく。また、毎日の教員間での情報交換会、生徒への声かけ、随時の生徒面談などを通して、いじめの未然防止・早期発見に継続的に取り組む。
学校関係者評価委員会の評価 ・授業だけでは学ぶことができないことを、学校行事や生徒会活動を通して学ぶことができるので、行事への参加を促していただきたい。					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 ・生徒には機会をとらえて、学校行事の意義を伝えながら参加意識を高めていきたい。					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3	キャリア教育を推進する中で、社会人として必要な人間力や望ましい勤労観・職業観を育成し、個に応じた進路実現のための指導の充実を図る。	① 進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を育み、進路選択の能力を高める。	進路指導課 「進路講話、進路学習会、企業ガイダンス等の体験をとおして、勤労観・職業観を持つことができた」生徒の割合が A 85% 以上である B 65% 以上である C 50% 以上である D 50% 未満である	D	「企業ガイダンス（7月）への参加や、いしかわ企業人インタビューDVDの視聴、就労支援講演会（12月）を通して、勤労観・職業観をもつことができたか」というアンケートに対して、「持つことができた」と回答した生徒が31%であった。（「持つことができた」・「ほぼ持つことができた」100%） 12月の就労支援講演会では「自分を守ること、大事にすることは、人や会社を大事にすること」、「雇われる力を身につけることが大切であるという」講演の中の言葉が印象に残ったという生徒が多かった。 その都度、振り返りを通してそれぞれの取組の意義を生徒に伝えながら、正しい勤労観・職業観を育てていく。
	② 教育振興会と学校の繋がりを深めるため情報発信に努め、インターンシップ・企業見学等の受入を依頼する。	総務課 「インターンシップ等を受け入れてもらった会員企業が」 A 12社 以上である B 10社 以上である C 8社 以上である D 8社 未満である	D	本校教育振興会の会員企業にインターンシップ等の受け入れを依頼したところ15社の会員企業から受け入れ可能の返事をいただいた。卒業予定者以外の生徒に受け入れ可能の会員企業を提示し、7月に希望調査を実施したところ参加希望者はいなかった。 本校では、現在53%の生徒がアルバイトを行っており、夏休み期間のインターンシップ等に参加しなかった。講演会等を通じてインターンシップの意義を伝えていく。	
学校関係者評価委員会の評価 ・いろいろな事情があり、参加できない生徒もいると思うが、インターンシップは、外の世界をのぞくだけでなく、自分自身について新しい発見が得られるなど、たいへん貴重な機会であるので、参加者がいなかったのは残念である。					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 ・アルバイトでの就労経験があるため、インターンシップへの参加を控える生徒が多いが、就労支援講演会などの働きかけを通して、意義を伝え参加を促していく。					

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 家庭や地域と連携した健康教育を推進し、健康安全指導の充実を図る。	① 計画的に健康安全指導の充実を図る。 ② 食育をとおして食の知識を身につけるとともに、食生活を改善するよう指導する。	保健 厚生課 各担任	「各種の健康や安全に対する取り組みが生活習慣の改善に役に立つ」と思う生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	D	能登半島地震から一年の節目の時期を迎えるにあたって、スクールカウンセラーによる講演会を開催し、アンバーサリ－反応に備えてリラクゼーションの仕方やストレスの対処法について指導した。事後のアンケートの結果、「講演会で学んだことが今後役に立つ」と回答した生徒は47%（役に立つ・やや役に立つ100%）だったが、自由記述の部分では、イライラしたりストレスがたまったりした時に学んだことを実践したい、ストレスの対処法を学ぶことができて良かったなどの感想が複数寄せられた。 今後も引き続き、生徒が自分の心身の状態に関心を持ち、健康で安全な生活を実践する態度を育んでいく。
学校関係者評価委員会の評価 ・年齢を重ねると、栄養バランスのとれた食事を作ったり、摂るようになってくるが、若いうちから、病気になった場合の具体を教えるなどしながら、食育の大切さを伝えていただきたい。					
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 ・関連する教科の授業や、食育教室を通じて、引き続き食育の重要性を指導していく。また、カウンセラーを活用し、心のケアについてもさらに指導していく。					

重点目標		具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	評価	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5	ワークライフバランスの視点を意識し、効率的な校務運営を推進することで、メンタルヘルスの保持増進に努める。	① 書類・データ等の整理整頓を行うと共に、重要度と緊急性の観点から優先順位を決める。 ② お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行する。	全教職員	「お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できた」教職員の割合が A 100% である B 87% 以上である C 75% 以上である D 75% 未満である	D	教員8名を対象に、お互いに協力し合うことで効率的に業務を遂行できたかどうかを尋ねた結果、「よくできた」と回答した教員が25%（昨年度13%）であった。（「よくできた」・「まあまあできた」100%） ICT等を活用した事務的作業の効率化や情報整理を図り、業務改善の意識を持ちながら職務遂行にあたる。また、状況に応じて他の教員をサポートしたり、業務内容を分担したりするなどして、業務の平準化を図る。
学校関係者評価委員会の評価 ・教員の超過勤務時間は平均数時間で概ね適正の範囲であるということであったが、今後も継続していただきたい。						
学校関係者評価委員会の評価を踏まえた今後の改善策 ・事務的作業の効率化や時間の管理、業務の平準化をさらに推し進めて行く。						